

玉川教会たより

日本基督教団玉川教会

町田市玉川学園4-5-32

電話 042-732-9321

「天から降ってくるもの」

「見よ、わたしはあなたたちのために、天からパンを降らせる。

民は出て行って、毎日必要な分だけ集める」

(出エジプト記16章4節)

5月20日にペンテコステを迎え、今年も「教会の誕生日」を喜びを持って祝うことができました。改めてペンテコステの出来事を考えてみると、本当に不思議な出来事であることを思わされます。天から降ってくる聖霊の存在は、形が不思議で(ある意味恐ろしい)、それがそれぞれに留まった途端に人々は沢山の国の言葉を話すようになりました。このことはただ話すことが出来るようになったということだけではなく、同時にその国の言葉を理解することが出来るようになったということです。言うなればこれ以上ない「翻訳機」を与えられたという事になりますので、語学が苦手な者としては羨ましい限りですが、しかし、聖霊はただの「翻訳機」ではなく、人々にとっては神さまの言葉を理解することが出来るようになる「翻訳機」だったのです。

そしてそんな「翻訳機」を与えられた者たちが世の中へ「福音」を語るようになったということは、それだけ神の言葉に「力」が与えられていたからです。まったく語ることができなかった者たちが語るようになる、それはその言葉が確かなものであり、「これこそ伝えるべき言葉」という確信が与えられたからです。

聖書に於いて「天」から降ってくるものはどんなものでも必ず神さまの意志が込められています。ペンテコステの聖霊がそうであり、そして旧約の時代に与えられた「パン」も同様です。旧約聖書出エジプト記の16章では、奴隸として働かされていたエジプトから脱出させられたイスラエルの民が、荒野を進んで行く道中で喉が渴き、お腹が空きだした時、天から「マナ」が降ってきたと記されています。まるで全てを見越した神さまが必要なものを与えて下さっていると感じさせられる箇所ですが、でもそこには人間の「うめき」がありました。どうにもならない現状を神さまに訴えるのです。時にそれは神さまへの不満に変わっていくことにもなり、そんな時人々の心は神さまの言葉を受け入れることが出来ていなかったのです。

しかし、そんな人々にも神さまは天から生きるための「パン」を与えて下さいました。聖霊を与えられた時も、人々は不満ではないけれども、どうして良いか分からない「うめき」を祈りとして神さまに届けていました。そんな「うめき」に応えて下さり、神さまはわたしたちに必要な「言葉」や「パン」を与えて下さるのです。

欲張ることなく、しかし、受け取るべき者はしっかりと受け取り、与えられた恵みに感謝しつつ、歩んでいく者でありたいと思うのです。